

第2回利賀ダム環境検討委員会 議事要旨

開催年月日/会場	議 事	出席委員(敬称略)	調査、予測、評価の手法の選定及び既往調査結果概要の報告	議事要旨	
<p>平成 17 年 2 月 4 日 富山第一ホテル (富山市桜木町)</p>	<p>①調査、予測、評価の手法の選定及び既往調査結果概要の報告</p>	<p>阿部 學(日本猛禽類研究機構 理事長) 大串 龍一(金沢大学名誉教授) 小泉 邦雄(富山大学工学部教授) 高倉 盛安(元富山県立大学短期大学部長) 田中 晋 (富山大学教育学部教授) 長井 真隆(元富山大学教育学部教授) 中村 浩二(金沢大学理学部教授) 湯浅 純孝(富山県自然博物館ねいの里 館長)</p>	<p>調査、予測、評価の手法の選定及び既往調査結果概要の報告</p>	<p>大気環境</p>	<p>・調査結果については類型区分及び要請限度を記載しているが、一般人には分かりにくいいため、説明を加えた方がよい。</p>
				<p>水環境</p>	<p>・富栄養化の項目は、十分な調査項目が挙げられており、特に問題ないと考えている。 ・貯水池の水質予測手法として鉛直2次元モデルを使うことは妥当である。 ・ポーレンバイダーの結果を見ると、富栄養と中栄養のきわどい所にある。しかし、ポーレンバイダーはトータルリンで予測するため、生活排水等に関わらず、土壌に吸着している自然由来のリンが多い場合には、すぐ富栄養化するように見えてしまうため、鉛直2次元モデルによって予測を行うことで問題ない。</p>
				<p>動物・植物・生態系</p>	<p>・陸域の直接改変以外の影響で、林縁環境の出現という影響要因を取り上げているが、例えば、樹林の縮小化等の間接的な影響要因も考えた方がよい。 ・今回紹介されたもの以外で不足する調査として、カメ類、陸産貝類について調査が必要ではないかと考えられる。 ・県のレッドデータブックで情報不足という項目があるが、それらの種については、特に留意してほしい。 ・ダムの上流、下流で粒度組成が変化することで水生生物も変化があると考えられる。 ・生物については可能な限り定量的な手法を用いて予測、評価を行ってほしい。 ・全てが定量的な評価ができるわけではないが、生態系の典型性では、注目種を抽出し、評価する視点が大事である。 ・昆虫類については、評価がとても難しいが、典型性との結びつき、生息環境との結びつき等に留意し、わかりやすい評価の手法で整理してほしい。</p>
				<p>景観</p>	<p>・景観については、評価する人によって主観が変わり難しい面がある。県の自然環境指針の中で景観を3ランクに分けてリストアップしたものがあるので参考となるのではないかと。</p>